

5 紀伊国府と古墳群

古代官道である南海道は紀伊国府(推定地:和歌山市府中)の前を通ります。紀伊国府の遺構は見つかっていません。淡島街道を歩きつつ古墳群を巡ります。南海道を通る古代の駅事も地方豪族が造った古墳群を遠くに眺めていたかもしれません。

- ウォークコース
- 南海道
- 灌漑用水路
- 万葉故地
- 道標
- 城跡
- 公園・緑地
- 国道
- 県道
- 駅
- 学校
- 神社
- 見どころ

- 到着** 南海八幡前駅 2.3km 46分
- 車駕之古址古墳 0.8km 16分
- 大年神社 4.4km 88分
- 大谷古墳 2.4km 48分
- 伊達神社 1.9km 38分
- 丹生神社の樟樹 2.6km 52分
- 聖天宮 2.1km 42分
- 出発** JR紀伊駅

車駕之古址古墳

周濠を含めた主軸長約120mの前方後円墳。葺石をもち2~3段に築成された墳丘は削平を受け埋葬施設は不明だが金製の勾玉が出土。



大年神社

貴志荘6ヶ村の産土神で、江戸時代には和歌山城から北西にあたるため「乾の宮」といわれていた。神社境内の「岩神さん」とよばれる大岩は眼病に効果があるといわれている。



大谷古墳

主軸長約70mの前方後円墳。大陸、朝鮮半島ゆかりの馬冑・馬甲を副葬するところから雄略朝のころ半島へ渡った武人の墓か。



到着

出発

釜山古墳

県指定史跡。車駕之古址古墳、茶臼山古墳とともに木ノ本古墳群を形成する。周濠をもつ直径約40mの大型円墳。5世紀。



伊達神社

かつての紀三所社のひとつ。延喜式神名帳の伊達神社であろう。園部、大谷、平井、善明寺4ヶ村の産土神で園部神社とも呼ばれる。

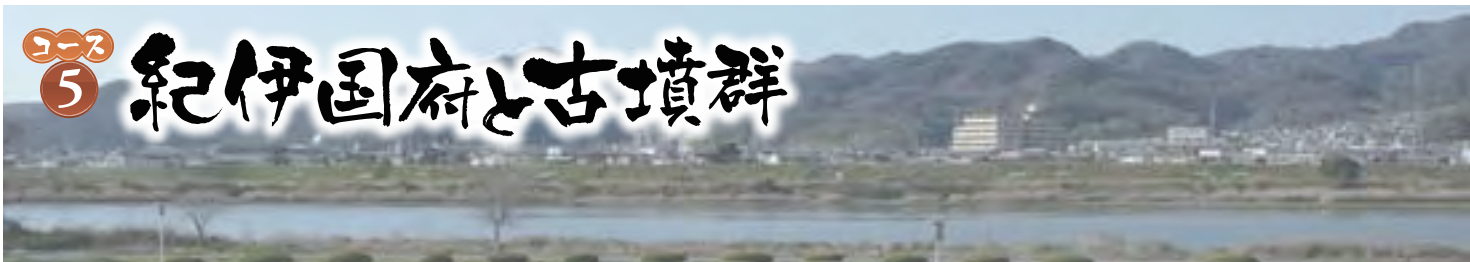


聖天宮(府守神社)

聖天宮は国府の守護神であったと考えられ、府守神社ともいわれる。社殿は美麗で以前は八幡神社と伝えられ、府中八幡の通称もある。神社を中心に紀伊国府の政庁があったと考えられている。



紀伊国府と古墳群



府中地区で紀伊国府のおかれた高所にいたります。国府域は明確ではありませんが府守神社周辺に国衙が置かれていたものと推定されます。直川から園部地区では直川廃寺跡、丹生神社、射矢止神社、大同寺、伊達神社などの傍らを西進します。

六十谷から平井地区にかけては古墳時代の遺跡が多く存在します。大谷古墳、横穴石室をもつ園部丸山古墳のほか、朝鮮半島南部の陶質土器あるいはその影響を受けた初期須恵器が出土した六十谷古墳、鳴滝遺跡、楠見遺跡は海外文化の窓口であった平井津周辺に展開します。さらに西進すれば岸村行宮推定地、大年神社を経て木ノ本地区では土入川を航行する船舶から目視できた釜山古墳群とも呼ばれる3基の大型古墳である釜山古墳、車駕之古址古墳、茶白山古墳にいたります。



釜山古墳

紀伊国府について

国府とは律令時代に設置された各国々の役所で今の県庁に当たります。全国の国府の所在した郡名を書いた平安時代の書物が残っています。国府はふつう「こう」と呼ぶことが多いです。所在した場所の地名は「府中」（徳島県ではこの地名を「こう」と読みます）「国府」「国衙」などがあります。所在した郡の中でそのような地名の場所を国府跡と考え

ることができます。その後発掘調査で国府の様子が分かるようになってきました。その結果、全国の国府では、政治の中心となる政庁は、中心となる正殿が南面して建てられ、その前後に前殿や後殿を置くが、いずれかを欠いていることもあります。正殿の左右前方に南北棟の東・西脇殿が対称的に配置され、これらのあいだに広い前庭をつくり、前庭には玉石を敷くこともありました。また南正面には南門が設けられ、他の3面にも門があったことが分かっています。政庁近辺には国府の役人（国司等）の官舎や倉庫群等がありました。

紀伊国の国府は名草郡（現在の和歌山市）府中であつたと考えられます。

和歌山市府中の聖天宮（府守神社）を中心としてその西一帯の地名「平林」や、南の影臨寺付近の「御館」という地名が残る付近に政治を行う政庁があつたのではないかと考えられています。

府守神社の周辺ではボーリング調査が行われており、8～9世紀に属する遺物が神社以東で高密度に分布している可能性があるといわれています。天慶2年(878)に9月に台風が襲来し、紀伊国の国府の政庁・学校・21の官舎が壊れたとの記録が残っていますがその建物群の建っていたところはまだわかっていません。



府守神社

平井津

平安時代中頃の永承3年(1048)の記録に平井津と吉田津という湊の名前があります。紀の川上・中

流の物資輸送や古代の租税の海上輸送の要の湊であったことが分かります。

物資としては、籾（稲穂）や木材を輸送していたことがわかります。平井津は今の和歌山市平井で淡路街道の南付近に想定されます。紀の川は当時その南、現在の県道7号線付近を流れていたのだでしょう。南海道は津の北を通っていたことが推定できます。

鳴滝倉庫群遺跡

古墳時代の巨大倉庫群遺跡で、和泉山脈の南麓の丘陵を削平したうえで、西側に5棟、東に2棟掘立柱建物が整然と配置され、最大のもは10×8mの建物が見つかりました。5世紀前半から中頃のきわめて短期間に存在し、柱を抜き取っていることから人為的に壊されたようです。だれが作ったかは意見が分かりますが、紀の川北岸の湊や道路を復元模型と遺物は県立紀伊風土記の丘に展示されています。



鳴滝遺跡倉庫群復元模型

写真提供：和歌山県立紀伊風土記の丘

岸村行宮推定地

天平神護元年(765)10月、称徳天皇は玉津島(和歌の浦)に幸します。往路は紀の川筋を通り、復路は孝子峠を越えて和泉国を経て平城京に還ります。『続日本紀』の記事から、玉津島→「海部郡岸村行宮」→「和泉国日根郡深日行宮」というルートを取ったことが分かります。